

朝鮮産甲殻十脚類の知究

第二報 ヤドカリ類 (その四)

上 田 常 一

(昭和31年11月30日受理)

Tsuneichi KAMITA : Studies on the Decapod Crustaceans of Corea,
Part. II, Hermit-Crabs (4)

Family ALBUNEIDAE FABRICIUS クダヒゲガニ科

砂中に埋もれてすみ、第1触角内側の上下2列の毛を左右合せて長い出水管をつくる。

朝鮮産クダヒゲガニ科2種の検索表

- A. 額角は側棘より著しく短、甲側縁に3棘、眼柄は中央で関節せず側扁先小、第1触角は第2より長い、第3顎脚長節の内縁無棘。……………キタクダヒゲガニ
AA. 額角は側棘より僅短、甲側縁4棘、眼柄の基節は長く突出、先はやや太く、第1触角は第2より甚だ短く柄部は長い、第3顎脚長節の前方内縁に棘。……………トゲクダヒゲガニ (仮称)

Genus *Lophomastrix* BENEDICT 1904 クダヒゲガニ属

19. *Lophomastrix brevirostris* URITA キタクダヒゲガニ (北, 瓜田友衛)

Lophomastrix brevirostris URITA 1934, Zool. Mag. Jap., Vol. 46, No. 546, p. 149, Figs. 1, 2a~j, 1942, p. 53.

Localities : Seishin, Kankyô-hokudô ; 1♀; VIII/1940 ; Mr. J. YOTANI, Genzan, Kankyô-nandô ; 1♀ ; VII/1926 ; writer. Kotei, Kôgen-dô ; 2♀♀ (1 ovig.) ; 8/X/1934 ; Writer.

Measurements :

Specimens	Seishin	Genzan	Kotei	
	(♀)	(♀)	No.1 (♀)	No.2 (ovig.)
Length of carapace (in mm)	27.5	20	21	20.5
Width of carapace (in mm)	24.5	18.5	20	19

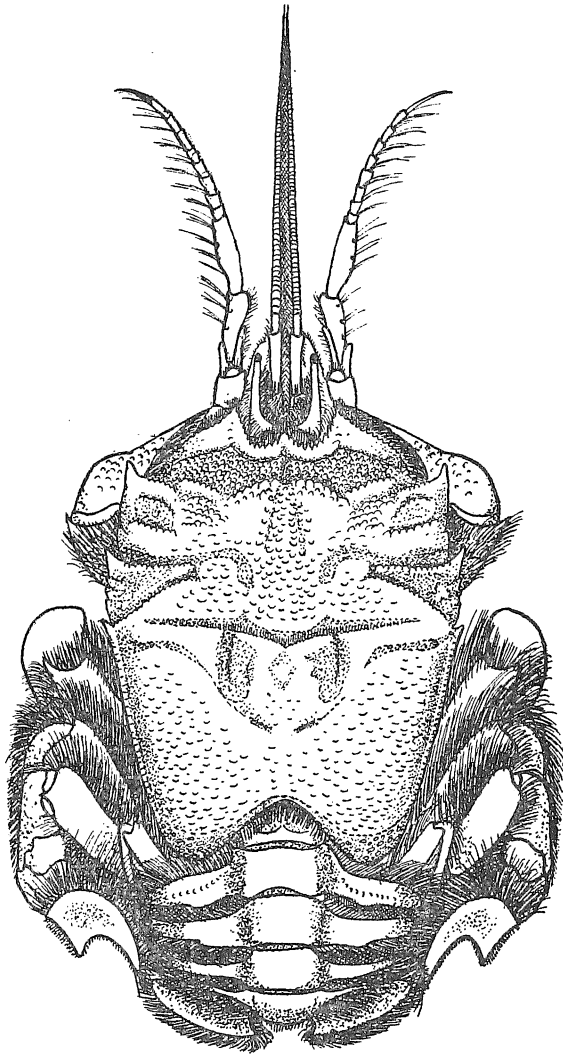
本種は瓜田友衛氏によつて、樺太亞庭湾沿岸および樺太西海岸から初めて報ぜられた。頭胸甲は先方が広がつた楕円形、甲背は高まり、大なる♀は甲長 27.5mm 甲巾 24.5mm にして、樺太産の抱卵せる♀の長さ 32mm 巾 25mm に比べると小さい。甲の前縁に伏生する3棘あり、小鋸で縁つける。左右の2棘は大きく尖鋭、中央の1棘(額角)は背面がくぼみ、その先は左右棘を連ねる線にははるかに達しない。両側棘の外縁は鋸齒しだいに微となり、深くくぼみを隔てて甲の前側縁に連る。甲前側縁に3棘あり、前方棘が最大にして後方棘は甚だ小さい。甲

の最大巾は中間棘を連ねる線に当る。甲背の前域には横に波状をなくして列ぶ4つの低い結節があり、中央の2つは外側のものより低くかつ短い。甲背のほぼ中央に顕著なる横溝があつて胃域と心域との境から発して左右へ走る。また、甲の前側縁の3棘から発して甲背面を内方へ走る溝があり、中と後の溝は顕著にして内方で合す。なお、甲背の前方に小さい鱗片状顆粒を装い、後胃域と鰓域に多くの孔点をかざる。側甲板は背甲に結合せず、前半は顆粒を、後半は多くの亀裂を生ず。背甲の後側縁は直線をなし、顆粒の連鎖からなる。

眼柄はW字状縁の前にあり、基部は太く他は側扁して、角膜は小さい。第1触角を側面からみると、基部はZ字状にたまたまれた3節から成り、初の2節は側扁し、後の1節は円柱状で内外の鞭状2枝を具う。内枝は上位して甚だ長く、頭胸甲とほぼ同長、その上下両縁には内方へ

下位して甚だ短い。第2触角は外縁にまばらに長毛を列す。柄部は5節、第1節は横に巾広く前方内角に鈍頭の1棘を具う(下面からみる)。第2節の先端に1小鱗を付ける。これはヤドカリの触角棘(Antennal acicle)と相同で、触角外枝の著しく退化萎縮したものと考えられる。第3節以下は触角内枝に当り、第4節は楔状をなして第3節にはまり、第5節は円柱状をす。第3顎脚の基部は相隔たり、内枝は6節、周縁に剛毛を装い、基節の内縁に鋸歯を列し、長節は無歯、外枝は細長く2節から成る。

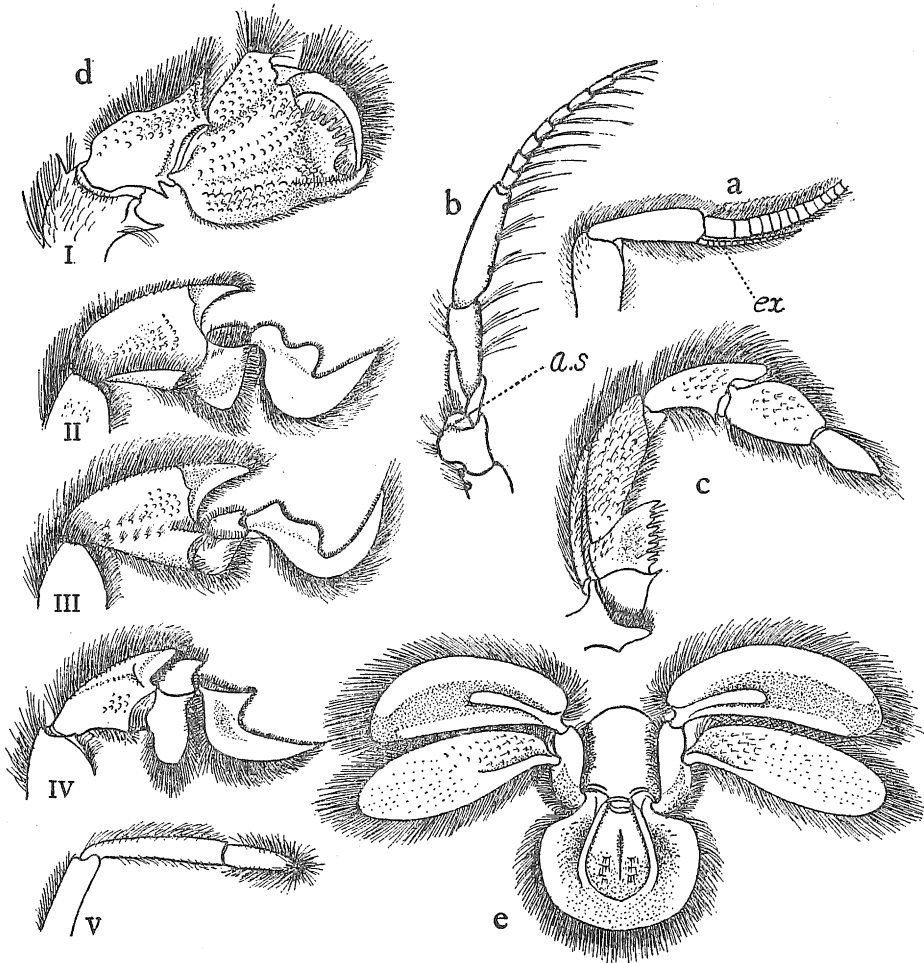
第1脚は鋏脚で、掌節は巾広く扁平、指節は湾曲し前節と対して鋏をなし、不動指に6鋸歯



Text-fig. 37. *Lophomastrix brevirostris* URITA,

♀ from Seishin, ×1.8.

キタクダヒゲガニ



Text-fig. 38. *Lophomatrix brevirostris* URITA : a, 1st antenna, ex, exopodite ; b, 2nd antenna, a.s, antennal scale ; c, 3rd maxilliped ; d, I~V, thoracic appendages ; e, tail fan.

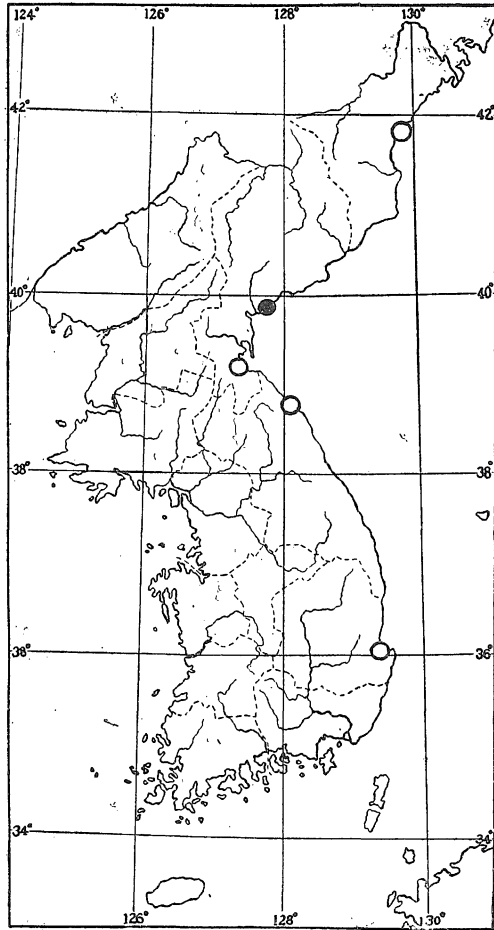
キタクダヒゲガニの付属肢

を列す。腕節以下の上縁に多くの剛毛を装う。第2~4脚の各節は著しく形状を異にし、第2脚の指節は最も巾広く扁平鎌状、刃縁は深淺2つのくぼみによつて波状をなす。第3脚は指節が巾せまいのみで、他は前脚と形状が同じ。第4脚は小さく、指節の刃縁は湾曲するのみで波状ではない。第5脚は甚だ小さく棒状、最後胸環節に付属し、指節は痕跡的で前節と共に逆毛を装う。

腹部は7節、常に頭胸部の下面にゆるく曲げる。第1節は頭胸甲の直後にあつて無棘、第2~5節は左右に翼状棘を具う。第6節に無翼。第7節はうちわ状、周縁に羽毛を列し、前角に付属する内外2枝も扁平楕円形で周縁に羽毛を列し、顯著なる尾鰭(尾扇)を形成するが、游

泳に使わないようだ。♀は第3脚の底節に生殖孔を具え、腹部は翼棘ある節のみに細長い脚を有し、それらは2節から成り毛を付して抱卵に便する。

筆者は生時の色をまだ見てないが、瓜田氏の報文では、砂浜に埋没してすみ、背面は紫色で腹面は白という。



Text-fig. 39. Distribution map of 2 species of Albuneidae found in Korea :

- *Lophomastrix brevisrostris* キタクダヒゲガニ
● ? *Lepidopa* sp. トゲクダヒゲガニ
クダヒゲガニの分布

朝鮮における分布：対馬暖流の洗う半島の東海岸の北部まで砂浜に埋れてすみ、今のところ、南は慶尙南道の近日湾に始る。かつて慶尙北道水産試験場を訪ね、本種と思われる標本が1個あつたので、後日(III/1944)再検しようとしたおりに、標本はどこかえ持ち去られてなかつた。

20. ? *Lepidopa* sp.

トゲクダヒゲガニ(棘, 仮称)

Locality : Seikoshin, Kankyô-nandô ; 1 ♀ ; VIII/1937 ; Mr. T. KUMANO.

Measurement : length of carapace 20 mm, width of same 20mm.

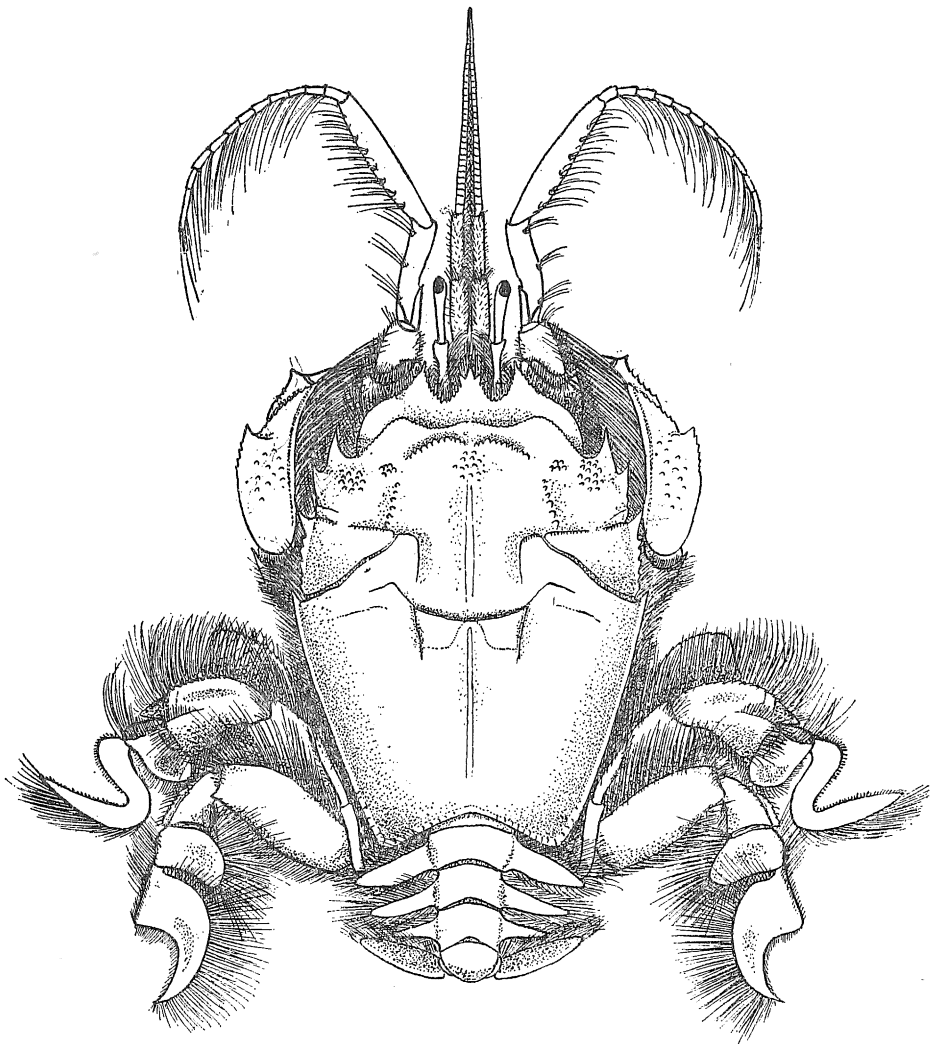
本種はキタクダヒゲガニと次の点で異なる。1) 頭胸甲前縁の中央棘(額角)は先が3叉し、かつ、左右両棘を連ねる線に僅かに達しない。2) 頭胸甲前側縁に4棘ある。3) 眼柄は側扁せず、先端僅にふくらみ、基節は長く突出する。4) 第1触角は第2触角より短い。5) 第3顎脚長節の前方内縁に3~4小棘を具う。6) 第1脚(鋏脚)は、腕節上縁に2棘、掌節外面に3棘、指節(可動指)上縁に3小棘がある。7) 第2~3脚の腕節外端の棘は鈍く、指節は1湾曲する。

本種はまた *Lophomastrix diomedea* BENEDICT に次の点で似る。1) 眼柄の

先端はふくらむ。2) 第1触角は第2触角より短い。しかし、次の点で明に異なる。1) 眼柄基節は長く突出する。2) 第3顎脚の前節内縁に小棘を具う。3) 頭胸甲前縁の中央棘は左右両棘を連ねる線に達しない。4) 頭胸甲前側縁に4棘を具う。

朝鮮における分布：対馬暖流の洗う半島の東海岸。因に、昭和3年(1928)発行の「石川県

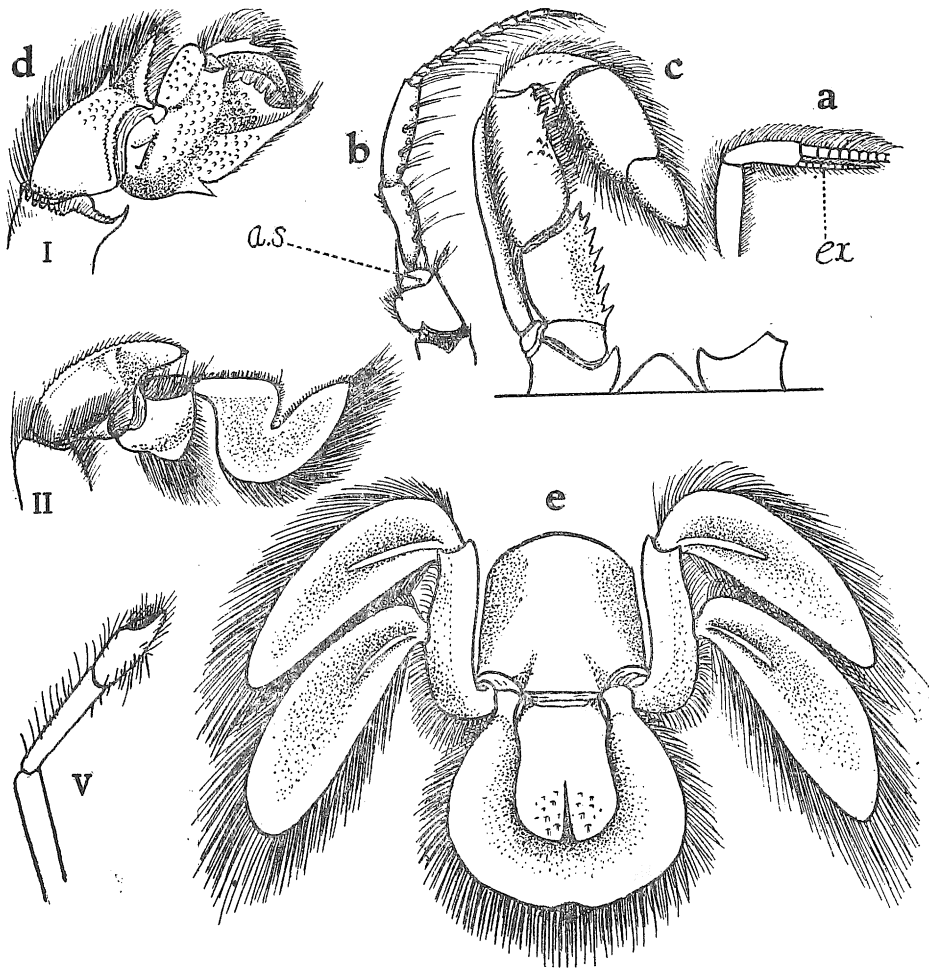
天然記念物調査書第四輯」には、このトゲクダヒゲガニを *Albunea* sp. * として、その図版（第四十九右下）と記事（53～54頁）を載す。要約すると、前側縁、眼窩後棘と合せて5棘をなす。額角三角形に突出するも、眼窩後縁の棘よりも短い。第1触角は甲長の1/2、第2触角は約甲長と等長にして1列の長毛がある。大正12年（1923）8月河北郡白尾で2個、同13年8月同郡外日角で2個採集とある。これで見ると、本種は日本海沿岸地方に広く分布するようである。



Text-fig. 40. ? *Lepidopa* sp., ♀ from Seikoshin, ×3.

トゲクダヒゲガニ

* *Albunea symnista* (L.) クダヒゲガニは、日本海側では富山湾伏木海岸まで北上する(菊池氏による)。

Text-fig. 41. ? *Lepidopa* sp. :

a, 1st antenna, ex, exopodite ; b, 2nd antenna, a.s, antennal scale ;
 c, 3rd maxilliped ; d, I, 1st leg, II, 2nd leg, V, 5th leg ; e, tail fan.
 トゲクダヒゲガニの付属肢

Subtribe III, GALATHEIDEA エビカニモドキ亜族

本亜族は沿岸あるいは深海底にすむ小形動物で、次の特徴がある。1) 頭胸甲は比較的良好に発達して背腹に扁平。2) 額角は発達して明瞭。3) 頭胸甲と側甲 (Pleurite) とは連続せず膜状物で界する。4) 腹部は左右相称、頭胸甲の腹面に曲る。5) 尾節と尾肢とは完全な尾鰭 (Tailfan) を形成し、往々尾節に縫合線を有す。6) 第2触角は4~5節から成る柄を具え、これに小鱗 (第2触角棘と相同) を付し、あるいは欠ぐ。7) 脚は第1脚のみ鋏をなす。8) 第5脚は退化萎縮。9) 鰓は多くは葉状鰓。

日本産の本亜族には、エーグレア科 Aegleidae, キロステイルス科 Chirostylidae, エビモドキ科 Galatheidae, カニダマン科 Porcellanidae の4科あるが、朝鮮近海から今までに採集さ

れたのは、後の2つである。

朝鮮産エビカニモドキ亜族2科の検索表

- A. エビ型。腹部は発達し胸部の下面に曲る。尾節に縫合線なく、尾緒は大きく末広り、第2触角は4節の柄部を有し、触角鱗は退化しあるいはなし。第3顎脚と第1～3胸脚に副枝 (Epipodite) を有す。…………… Galatheidae エビモドキ科
- AA. カニ型。腹部は退化し胸部の下面に曲る。尾節に縫合線あり、尾緒の先は狭い。第2触角は4節の柄部を有し、触角鱗なし。第3顎脚と胸脚に副枝を欠ぐ。…………… Porcellanidae カニダマシ科

I. Family GALATHEIDAE DANA エビモドキ科

朝鮮産エビモドキ科2属の検索表

- A. 額角は上下に扁平巾広い棘状で、常に側歯を具え、眼上棘は発達不良…………… Galathea エビモドキ属
- AA. 額角は左右に側扁平狭い棘状で側歯を欠ぎ、眼上棘はよく発達。…………… Munida エビカニ属

Genus *Galathea* FABRICIUS 1793 エビモドキ属

21. *Galathea orientalis* STIMPSON トウヨウエビモドキ (東洋)

Galathea orientalis STIMPSON 1858, Proc. Acad. Nat. Sci. Phila., p. 252 (not read), 1907, p. 231; MIERS 1879, p. 51; ORTMANN 1892, p. 252, Taf. 11, Figs. 10. a, 10. i.

本種は早く米国の STIMPSON 氏によつて、南支香港近くの Ly-i-moon Passage 25ピロの貝砂底からドレッジされ、甲長 0.26 インチ (6.6mm) 甲巾 0.19 インチ (4.8mm) の標品によつて初めて記載された。後、英国の測量船は朝鮮海峡 12～50 ピロのところから採集したと、MIERS 氏の報文にある。次いで DÖDERLEIN 氏によつて日本近海から広く採集されたこと、ORTMANN 氏の報文にある。筆者は在鮮中いまだこの標本を手にし得なかつた。

Genus *Munida* LEACH 1820 エビカニ属

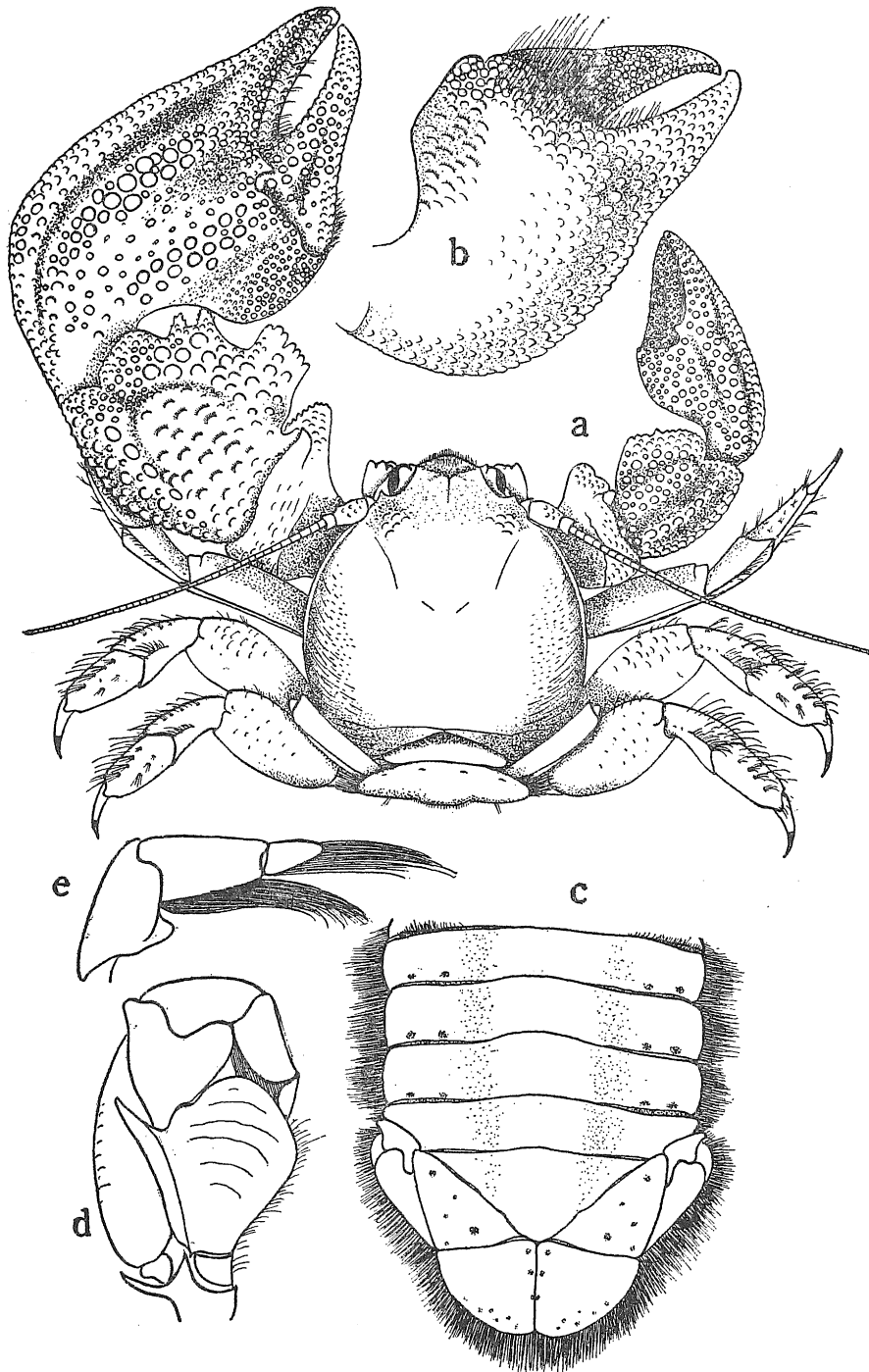
22. *Munida scabra* HENDERSON トゲエビカニ (棘, 柳田 勇)

Munida scabra HENDERSON 1888, Chall. Rept., Zool., XXVII, p. 134, Pl. XV, Fig. 4 (not read); YOKOYA 1933, p. 63; YANAGITA 1943, p. 30, Figs. 9～10a～c.

本種は英国の学術探検船 Challenger 号が、Little Ki Island の沖 140 ピロの深所から採集し、蒼鷹丸は濟州島の東 113m の深所から 1 合を採集した。柳田勇氏が愛知県三谷沖 360m の深所から報じた、抱卵せる♀の大きさは甲長 14mm 甲巾 13mm 鋏脚 45mm である。筆者は在鮮中ついにこの標本を手にする事ができなかつた。

23. *Munida japonica* STIMPSON ヤマトエビカニ (大和, 柳田 勇)

Munida japonica STIMPSON 1858, Proc. Acad. Nat. Sci. Phila., X, p. 252 (not



Text-fig. 43. *Pachycheles stevensii* STIMPSON :

a, dorsal view of ♂ from Kotei, $\times 3$; b, inner view of hand, $\times 3$;

c, abdomen of ♂, $\times 6$; d, 3rd and 2nd maxillipeds, $\times 6$;

e, anterior part of 3rd maxilliped.

カニモドキ

窩と第2節との間に隔壁はない。従つて眼柄と第2節は相接近する。第3節は最長，第4節は最小，鞭状部は甚長横出する。第3顎脚腕節は甲前方に露出し，前節・指節の内縁に長毛を列す。鰓域外壁の側甲は前後大小2片に分れ，膜質で結合する。

鋏脚は左右異大，掌節は甚大菱形扁平にして，外内両面多くの大小顆粒を装い，外面に2条の隆起があり，不動指の内側基部に毛房を有す。腕節は巾広く大小顆粒を装い，内縁に4棘，長節は短く三角形，前方内端に1大棘を具う。歩脚前3対はよく発達生毛，後の1対は萎縮して甲尻にたとむ。腹部第6節の付属肢内枝は2節から成り，第7腹節と関接して5節の尾緒を形成する。

腹部周縁の毛相は，♀では合よりもいつそう密生。

朝鮮における分布：朝鮮海峡から日本海沿岸。

Genus *Petrolisthes* STIMPSON 1858

カニダマシ属

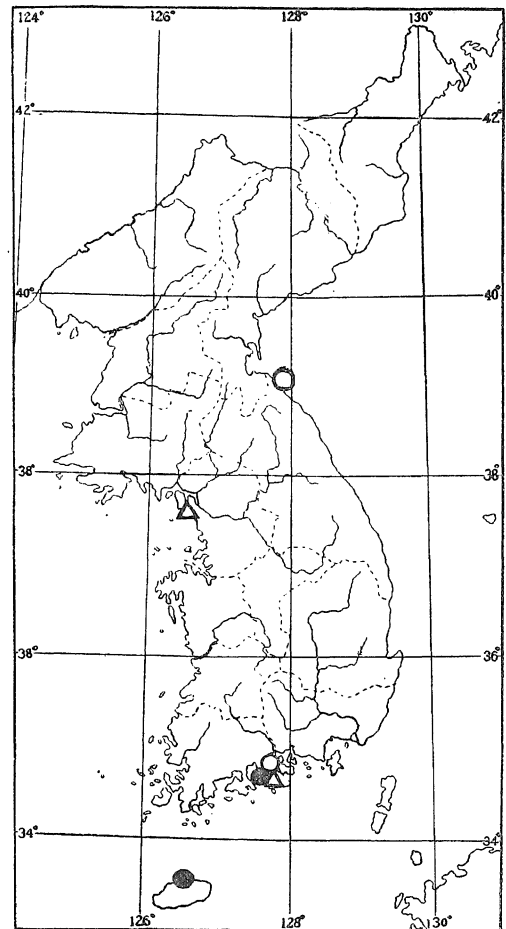
25. *petrolisthes japonicus* (DE HAAN) カニダマシ (中沢毅一)，イソカニダマシ (磯，三宅貞祥)，アカハラカニダマシ (赤腹)

Porcellana japonica DE HAAN 1849, Faun. Japon., Crust., p. 199, Tab. L, fig. 5.

Petrolisthes japonicus, STIMPSON 1858, Proc. Acad. Nat. Sci., Vol. X, p. 214 (not read); ORTMANN 1892, p. 216; KIKUCHI 1932, p. 7; MIYAKE 1937, p. 210; 1943, p. 72, Fig. 11.

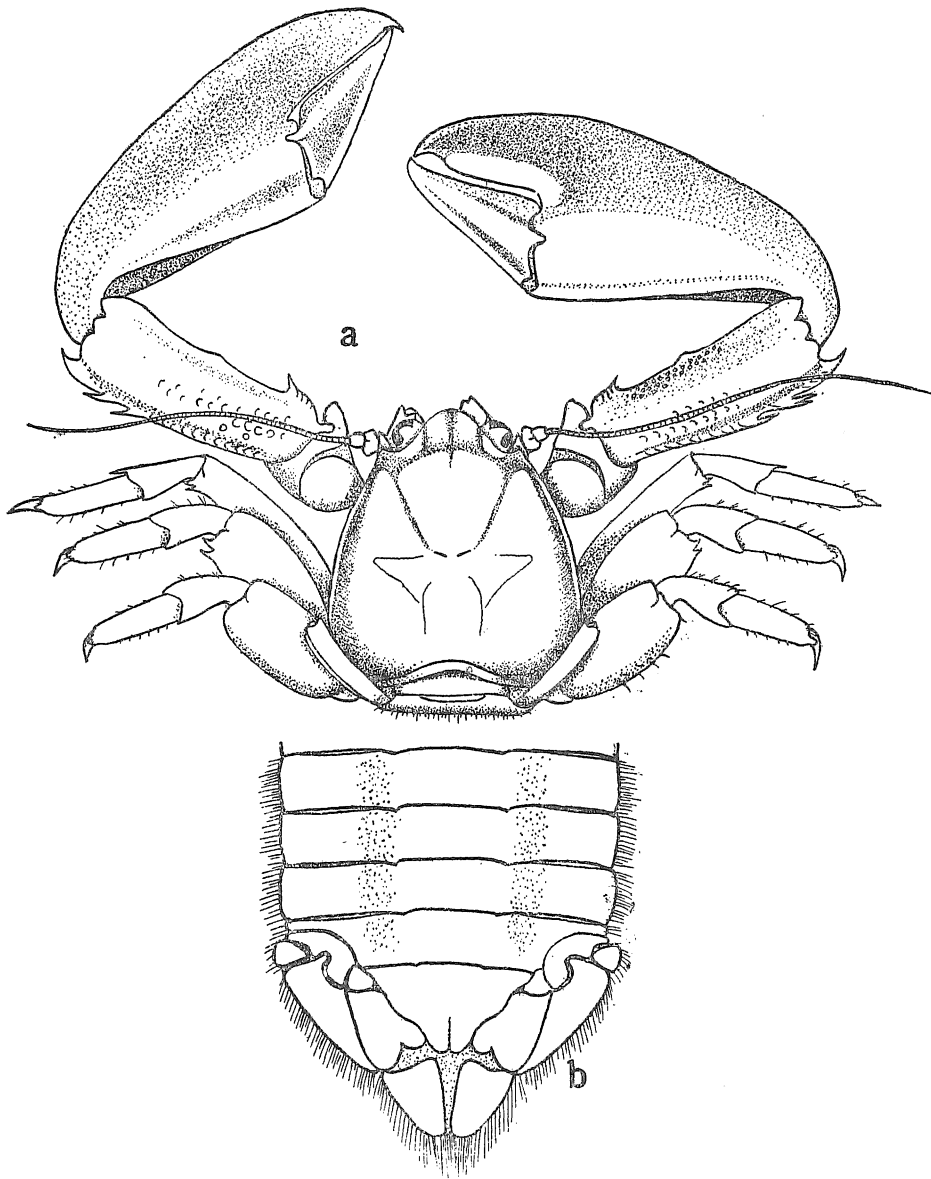
Localities :

Saishū-tō—Saishū; 4♂♂; 22/XI/1933; Saishū Futsū Gakkō; 2♀♀, 1♂; 20/III/1935; Mr. K. J. SAI; 2♂♂; 11/V III/1935; writer. Samen; 2 sps. (juv.); III/1934; Mr. B. K. KIN. Gaigetsu; 1♀, 1♂; 7/VIII/1934; 2♀♀ (1 ovig.), 2♂♂; 11/VIII/1938; Mr. K. R. Ko.



Text-fig. 44. Distribution map of 3 species of Porcellanidae found in Korea :

- *Pachycheles stevensii* カニモドキ
 - *Petrolisthes japonicus* カニダマシ
 - △ *Porcellana serratifrons* カニマガイ
- カニダマシの分布



Text-fig. 45. *Petrolisthes japonicus* (DE HAAN) :

a, dorsal view of ♂ from Suisū-tō, ×3.5 ; b, abdomen of same, ×5.5.

カニダマシ

Reisui, Zenra-nandō ; 1♀(ovig.) ; VIII/1933 ; Mr. O. T. SAI.

本種は甲長 10mm に達しない赤紫色小形のカニダマシで、早く SIEBOLD 氏の日本動物誌に記載され、後 STIMPSON, BALSS 氏によつて日本およびその近海から報ぜられた。頭胸甲は三角形、全体滑で、額角は巾広く鈍頭突出し、表面は中央と左右に浅い縦溝がある。眼窩直後に 1 歯、ここから甲尻まで甲側縁無歯、外方へ僅に張り出して縁とられる。眼柄太く角膜大。

第2触角柄部第1節は短く、甲縁と無関接、ために眼と第2節間に隔壁なく、第2節は眼の直後から突出第3節は大、鞭状部は甚長。第3顎脚長節は額の前に露出する。鋏脚は著大、右方が僅に大きい。掌節は長く扁平菱形滑で、鋏の両指は無歯、不動指は可動指より長く先端は曲る。腕節は長く扁平で顆粒を装い、前縁に2棘後縁に3棘あり、前縁の中央棘は鈍かつ痕跡的でなくなることもある、後縁は外端棘が最大となる。長節は短く三角形。歩脚の中央2対は長節が巾広く、前方2対は長節後外角に2小棘を具う。腕節以下はまばらに生毛。腹部は頭胸部の下面に曲り、7節から成り周縁に生毛し尾鱗を有す。第2～6節は巾広い長方形、第6節の外角に内外両枝から成る1対の腹肢を付ける。外枝は2節内枝は3節、後者は尾節と二次的に関接するために尾鱗は7節を数える。尾節は倒三角形、後端微に2分し側縁は波状。尾鱗下端の2節は膜を隔てて隣節と関節する。♀♂腹節の巾に広狭の別はないが、♀では周縁に毛を密生し、尾鱗末端の対向2節が長い。夏季抱卵、卵は少いが形は大きい。

朝鮮における分布：朝鮮海峽一帯。

Genus *Porcellana* LAMARCK 1801 カニマガイ属

26. *Porcellana serratifrons* STIMPSON フトウデカニダマシ (太腕, 三宅貞祥)

Porcellana serratifrons STIMPSON 1858, Proc. Acad. Nat. Sci. Phila., X, p. 242 (not read), 1907, p. 189, Pl. XXIII, Fig. 2; GORDON 1931, p. 526; MIYAKE 1943, p. 121, Figs. 44, 45,

Porcellana spinifrons MIERS 1879, Proc. Zool. Soc. London, p. 46.

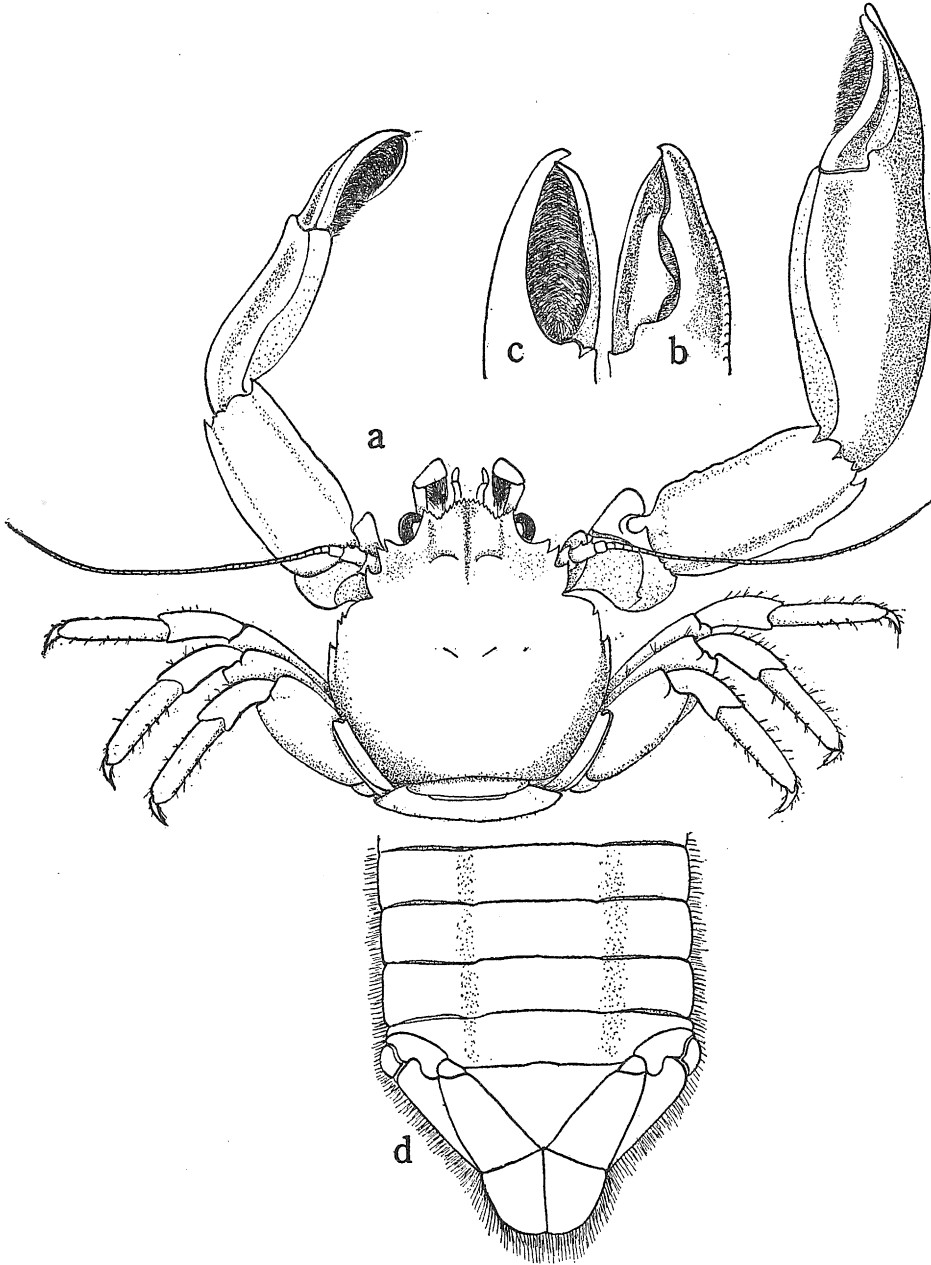
Localities: Corean Strait side—Reisui, Zenra-nandô; 1♀, 1♂; VIII/1933; Mr. O. T. SAI. Yellow Sea side—Zinsen; 1♀, 2♂♂; VI/1936; 3♂♂; 1/LX/1939; writer.

Measurements:

♂ from Zinsen, length of carapace 10mm, width of same 10mm.

Habit: One ♂ from Reisui besrs *Balanus* sp. of Cirripedia on the gastric region of the carapace.

本種は、米国の北太平洋探検船が支那海に航した際、香港で採集した材料から STIMPSON 氏が初めて記載した。後に、英国の測量船が朝鮮海峽から2こを採集した。頭胸甲は楕円形、肝域の後方でやや深く縊れて前後の2部に分れ、前部は狭く後部は横に張り、甲長と甲巾は共に 10mm である。額角は鈍頭低く突出し、眼窩上歯と明に界する。種小名の *serratifrons* が意味するように、額角周縁から眼上歯前縁にわたつて多くの微歯を列す。眼窩の後(肝域)に3大歯あり、後のが最大、甲前側縁はこの大歯の基部でやや強く縊れる。甲後側縁に2歯、後のが最大で前のは希に2小歯に分れる。個体変異が別種扱いされた例として、MIERS 氏は、朝鮮海峽の2個は、STIMPSON 氏記載のものとは異り、肝域には2歯あり額角の微歯数がより多いというて(これらを個体変異と予言しながらも)、*P. spinifrons* なる別種にした。甲背面は甲低く滑かにして、額角の後方胃域に左右2この結節がある。眼柄太く短く角膜は大きい。



Text-fig. 46. *Porcellana serratifrons* STIMPSON :

a, dorsal view of ♂ from Zinsen $\times 3.5$; b, outer view of cheliped ;

c, inner view of same ; d, abdomen of ♂, $\times 7$.

フトウデカニダマシ

第2触角柄は4節，その第1節は鋸歯を具えて長く突出，1部で甲縁と関接して眼窩の後壁をなし，第2節は眼のやや後方から突出，前縁に2小歯を具え，鞭状部は甚長。第3顎脚は大，

その長節は甲の前端に露出，前節・指節の内縁に長毛を列す。鋏脚は長く右方が大，長節は甚短ほぼ三角形，腕節は扁平長方形で前後両縁は翼状，外端に大小不齊の鋸齒を具う，掌節は腕節より長大，鋏の両指はねじれ内縁に毛房を有す。小鋏脚は掌節外縁に毛を密生。歩脚前3対は大，後1対は退化萎縮。長節は巾広く腕節以下にまばらに生毛。

腹部は扁平で頭胸部の下面に曲り7節あり，外縁に生毛，第2～6節は何れも巾広い長方形第7節は小三角形で後端は尖る。第6節外角に1対の巾広い腹肢を具え，内枝は3節で中節が最大，第7節と二次的に直線上に関節して尾鰭をなす。すなわち尾鰭は7節から成り左右相称。腹節は♀♂ほとんど広狭の別はないが，尾鰭は♀の方が広い。海岸潮だまりの礫介をはぐると速に後退する。

朝鮮における分布：朝鮮海峡から黄海沿岸にわたり，精査の上は日本海も加わるか。

Subtribe IV, THALASSINIDEA サラッシナ亜族

朝鮮産本亜族は，ザリガニモドキ科 Laomediidae とスナモグリ科 Callianassidae の2科を有し，次の特徴を具う。1) 腹部が長く発達して左右相称。2) 頭胸部は明であるが，甲は石灰化弱く柔かい。3) 胸肢第1対は強大なる鋏をなす。4) 第2脚以下の環節の曲り方は不ぞろいである。5) 腹肢は扁平板状。6) 各脚の形態構造は総じて砂泥の穿孔に適する。

朝鮮産サラッシナ亜族2科の検索表

- A. 頭胸甲の角状突起発達。第1胸脚は左右同形強固，完全な鋏を有す。尾脚は内外枝共に横線で2分する。…………… Laomediidae ザリガニモドキ科
 AA. 頭胸甲の角状突起発達，あるいは微小。第1胸脚は左右同形あるいは異形，強固完全な鋏にはならない。尾脚は2分しない。…………… Callianassidae スナモグリ科

1. Family LAOMEDIIDAE ザリガニモドキ科

Genus Laomedea DE HAAN 1850 ザリガニモドキ属

27. *Laomedea astacina* DE HAAN ザリガニモドキ

Laomedea astacina DE HAAN 1849, Faun. Japon., Crust., p. 165, Tab. XXXV, fig. 8; ORTMANN 1892, p. 51.

Locality: Shuan (near Zinsen); 1♀ (ovig.), 3♂♂ (collector and date unknown).

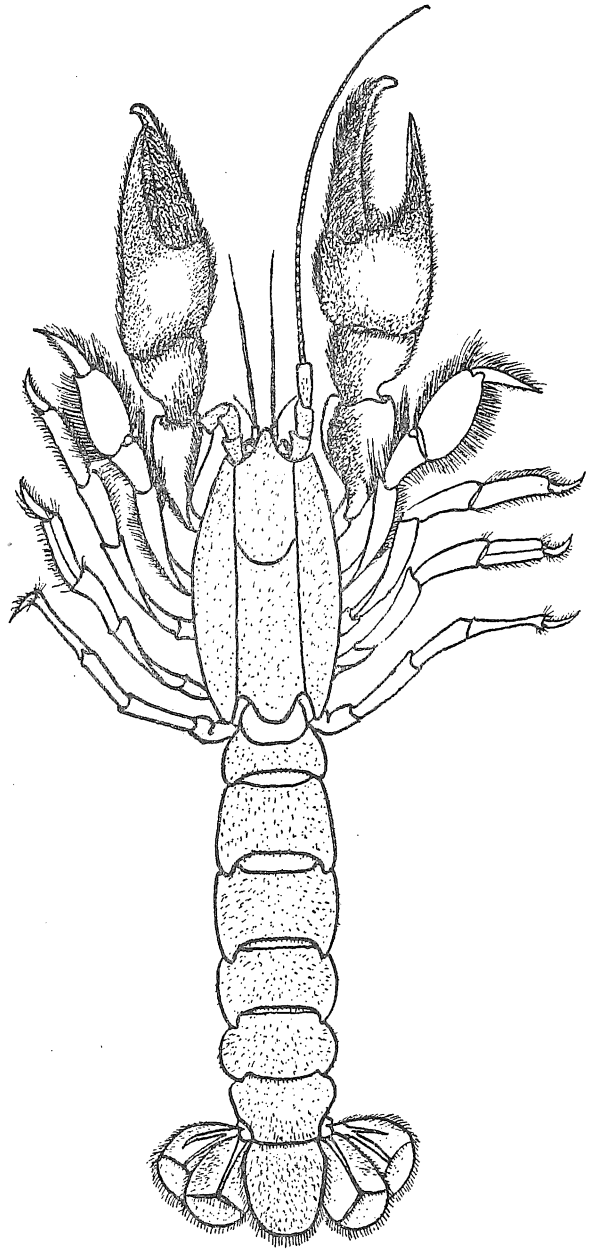
Habit: This animal is one of the vermins of the salt field at Shuan near Zinsen; it burrows in the ground of the salt pan. To exterminate these noxious animals, the salt makers pour the parings of tobacco into their burrows.

本種は日本近海特産で，初めて SIEBOLD 氏の日本動物誌に記載され，後 DÖDERLEIN 氏はこれを東京湾から採集し，ORTMANN 氏によつて，ドイツのエナ市動物学年報に載せられた。全身短毛を装い，頭胸甲前端の額角は鈍頭で突出，頭胸甲は横溝の他に，眼窩から発し

て甲側面を直線に後走する、いわゆるカリアナッサ線が明である。胸肢第1対は長毛を装い、全くあるいはほとんど左右同形同大、両指は不そろいながら強固完全な鋏を成す。可動指は長く先は扁平鈍頭、不動指はそれより僅に短くその先は鋭い。長節は短く背方に広がり、腕節三角形で掌節と関節。第2脚は周縁に長毛を列し、長節が甚長、腕節は前節の1/2、前節は甚だ巾広く、指節は鎌形。第3~5脚は、腕節が同長、指節は鎌形。最後脚の前節は巾狭く棒状をなす。腹部の甲板は発達、腹肢に内枝なく、尾脚は内外2枝共に横線で2分する。第43図は、元総督府専売局朱安出張所所蔵の標本を描いたものであるが、何分標本の古いせい、保存液のせい、腐つていて細部まで観察することはむづかしかった。

朝鮮における分布：本種は西海岸の干満両潮線間にすむようだが、同一条件下にある朝鮮海峡の沿岸にも分布するであろう。

人生との関係：西海岸では塩田の蒸発池に穿孔して池底をこわすので、その孔に煙草の刻屑やそのエキスを入れ、あるいは石灰窒素を注いで殺す。



Text-fig. 47. *Laomedea astacina* DE HAAN,
♂ from Shuan, ×2.
ザリガニモドキ

II. Family CALLIANASSIDAE BATE スナモグリ科

朝鮮産スナモグリ科2属の検索表

A. 第1鋏脚は左右不同、大なる方の腕・掌節は巾広く扁平、第2脚も鋏を成す。額角は退化し

てほとんどなし、眼柄は上下に扁平、背面に微小の眼点を付す。……………
 ………………*Callianassa* スナモグリ属
 AA. 第1脚のみ鋏を成し、左右同大同形、その腕・掌節は巾狭く扁平ではない。額角と眼柄
 は発達。……………*Upogebia* アナジャコ属

Genus *Callianassa* LEACH 1814 スナモグリ属

28. *Callianassa subterranea japonica* ORTMANN スナモグリ

Callianassa subterranea var. *japonica*

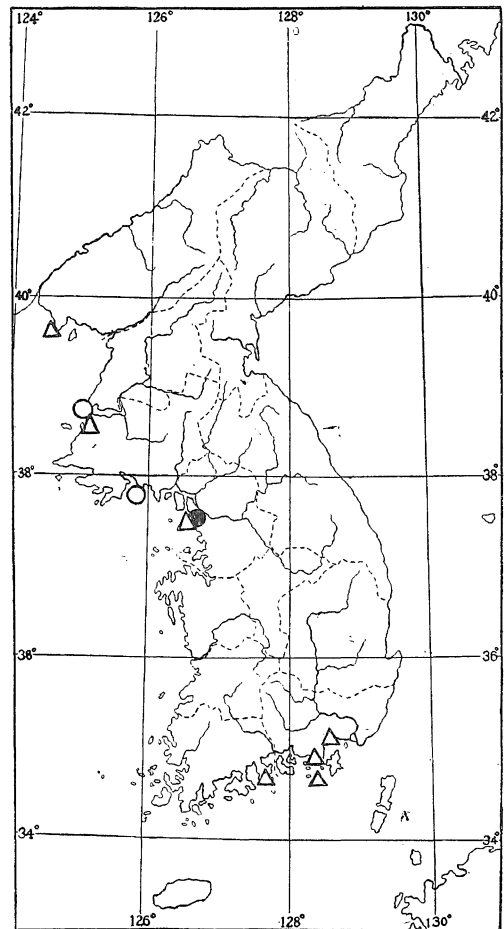
ORTMANN 1892, Zool. Jahrb., Syst.,
 VI, p. 56, Taf. 1, Fig. 10a; DOFLEIN
 1902, p. 664; BALSS 1914, p. 91; YOKO
 -YA 1930, p. 543; KIKUCHI 1932, p. 7.

本種は ORTMANN 氏によつて東京湾から初めて記載。額角は退化してほとんどなく、眼柄は上下に扁平、背面に微小の眼点を付す。各胸脚の形状は特異で次の特徴を有す。1) 第1脚は右が著大滑にして、腕節以下の周縁に微小の鋸歯を列す。その腕・掌節は甚巾広くほぼ同巾で、かつそれら両翼は下面に湾曲浅溝を生ず。掌節は腕節より短く、鋏の両指の先は鋭く曲りかつ多少下方に傾きながらくいちがい、白米形の大間隙を余す。不動指の基部に1大突起を具す。長節は巾狭く、腕節内隅で関節、外方にへら形の1突起を出し、これと内縁には小鋸歯を付す。長節にはなお突起前方が浅くくぼんで、腕節外側の基部と自由に接合する。座節は細長く外縁に鋸歯がある。

2) 第2脚は小、扁平鋏脚、長節以下周縁に美しい長毛を列生。3) 第3脚は前節が楕円板状に拡がり、指節と共に周縁に美長毛を列生。4) 第4脚はほぼこれに似る。

5) 第5脚は関節の特異構造によつて異状におり曲げられる。

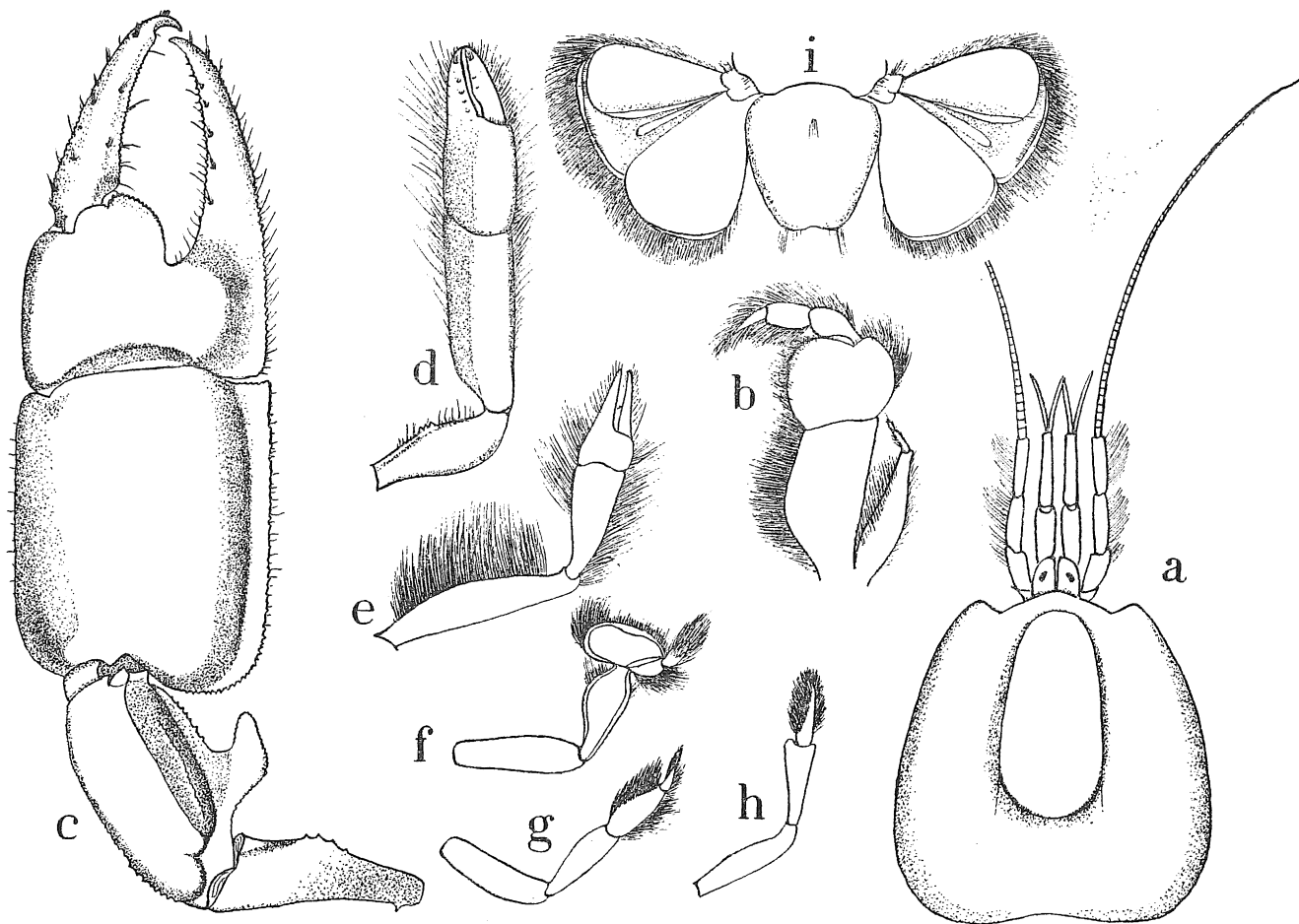
腹部第3～5節に1対脚、何れも内外2



Text-fig. 48. Distribution map of the species of Laomedidae and Callianasiidae found in Corea.

- *Laomedea astacina* ザリガニモドキ
- *Callianassa subterranea japonica* スナモグリ
- △ *Gebia major* アナジャコ

ザリガニ科とスナモグリ科の分布



Text-fig. 49. *Callianassa subterranea japonica* ORTMANN :
 a, cephalo-thorax of ♂ from Nisshin; b, 3rd maxilliped; c, larger cheliped; d, smaller cheliped; e~h, ambulatory legs; i, tail fan, all ×3.

ス ナ モ グ リ

葉が互に重り、さらに左右が重なり合つて立派な扇形を成す。尾節は後方が巾狭く、尾脚は大小2葉から成り、周縁に長毛を列生、尾節と共に著しい尾扇をつくる。

朝鮮における分布：黄海沿岸の干満潮線間の、清潔なる砂中に埋没してすむ。朝鮮の沿岸にもすむであろう。今次戦争中初夏の候配給に出た西海岸の小エビの中にまじつておつたことがある。

(次号へつづく)

引用文献

BALSS, H., DOFLEIN, F., KIKUCHI, K., MIERS, E. J., ORTMANN, A., STIMPSON, W., URITA, T. (1942), YOKOYA, Y. (193, 1939) の文献は、すでに、その二とその三で出しているので、ここでは省略する。

GORDON, I. 1931 (昭和 6) : Brachyura from the Coasts of China. Journ. Linn. Soc. Zool., Vol. XXXVII, No. 254.

石川県 1928 (昭和 3) : 石川県天然記念物調査報告第四輯。

三宅貞祥 (MIYAKE, T.) 1937 (昭和 12) : Porcellanids from Tanabe Bay. Annot. Zool. Jap., Vol. 16, No. 3.

————— 1943 (昭和 17) : Studies on the crab-shaped Anomura of Nippon and adjacent waters. Journ. Dept. Agr. Kyusyu Imp. Univ., Vol. 7, No. 3.

瓜田友衛 (URITA, T.) 1934 (昭和 9) : 樺太産管鬚蟹科 (Albuncidae) の一新種。動物学雑誌第四十六卷第五百四十六号。

柳田 勇 (YANAGITA, I.) 1942 (昭和 17) : Description of a new species of Munidopsis (Anomuran Crustacea) from Enshyunada, Japan. Bulletin of Biogeographical Society of Japan. Vol. 12, No. 5.

横尾 猷 (YOKOYA, Y.) 1930 (昭和 5) : Report of the biological survey of Mutsu Bay, 16. Macrura of Mutsu Bay. Sc. Rep. Tohoku Imp. Univ., Ser. 4, Biol., Vol. V, No. 3.

今泉力蔵 1954 (昭和 29) : *Upozebia*, アナジャコ化石。生物科学 (岩波), 進化特輯号。